

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	中世後期から近世における片仮名の仮名遣い : 辞書を中心として
Author(s)	山口, 倫香
Citation	論叢 国語教育学 , 17 : 44 - 51
Issue Date	2021-07-31
DOI	
Self DOI	10.15027/52312
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052312
Right	
Relation	



ており、片仮名の仮名遣い書ではない。片仮名の仮名遣いが存するとするのであれば、どのような仮名遣い書に依拠して片仮名の仮名遣いがなされているのか、比較によって明らかになると考えた。

三 中世後期から近世の辞書と仮名遣い書

表1から、『易林』については、『假名文字遣』から『和字正濫鈔』『字音假字用格』と、成立年が下るにつれて、一致率は低下している。

〈オ〉の一致率が最も下がり幅が大きく、〈ヲ〉や〈イ〉の一致率の下がり幅は小さい。「一 研究の目的」で触れたように、今西氏（一九九六）によって、『易林』と『假名文字遣』の関係については、既に指摘されている。表1-Aの一致率の高さは、今西氏の指摘とも一致する。

表2から、『広益』は、〈イ〉〈キ〉と〈オ〉〈ヲ〉の使い分けが意識的に強行行われていることがわかった。〈エ〉については、『假名文字遣』との一致率が高く、『和字正濫鈔』と『字音假字用格』との一致率が低い。これは、『広益』も、『易林』と同様に、『假名文字遣』の影響を受けているといえるだろう。

表3から、『大全』について、部立てとして採られている〈イ〉と〈オ〉では、一致率が高いままであることがわかった。〈キ〉と〈オ〉では、『假名文字遣』から、『和字正濫鈔』、『字音假字用格』へと、次第に一致率が低下している。これは、『大全』が、同時期に成立した『和字正濫鈔』や『字音假字用格』を、直接参照した訳ではないことが、理由として考えられる。部立ての影響から、『キ』と『オ』は用いられづらの中で、敢えて『キ』と『オ』が用いられる場合には、『假名文字遣』において、既に仮名遣いが示されている語であったといえる。

表4から、『萬代』では、『假名文字遣』と『和字正濫鈔』、『字音假

字用格』とそれぞれ比較した際に、あまり大きな違いが見られなかった。これは、『萬代』が、各仮名遣い書と、一定の距離があることを示しているといえる。各章において、例外的な表記をしている語について、語単位で分析を行うと、仮名遣い書の影響を受けているように見えた。この二つの結果から、『萬代』は、各仮名遣い書の影響を、直接的ではなく、間接的に受けたと考えられる。

四 同辞書内における平仮名と片仮名

表5において、例外的な表記の語を見ると、『和字正濫鈔』において、『大全』の平仮名〈お〉△が一六語であるのに対し、片仮名〈オ〉△が一語であることは、明確な違いであるといえる。それ以外の箇所では、例外的な表記の語について、大きく用例数が違うというものはみられなかった。以下、各仮名遣い書における特徴を挙げていく。

- ・『假名文字遣』において、『大全』の片仮名の用例が多い。また、『大全』〈オ〉△と、『萬代』〈オ〉△の用例が多い理由として、【大】に関する語が、二四語あることが挙げられる。
- ・『和字正濫鈔』では、『大全』『萬代』ともに、平仮名の○の語数が多い。『萬代』は〈お〉△より〈オ〉△の方が多い。
- ・『字音假字用格』において、『大全』〈エ〉の○と△の多くが片仮名の用例が多い。また、『萬代』〈え〉の○と△より、〈エ〉の○と△の用例が多い。

以上の様に、特徴を挙げたが、いずれも僅かな差であり、大きく違いがあるとは言えない。

よって、片仮名と平仮名の表記が同一辞書内で用いられている『大

『全』と『萬代』について、片仮名と平仮名による表記の差は、大きくないということがわかった。

五 中世後期から近世の辞書と五十音図

五十音図について、釘貫(二〇〇七)は、以下の様に指摘している。

契沖の「五十音図」は、従来の音図に対する考え方とは異なつて、梵文から一貫する普遍性を備えた古代日本語の五十個の音を全体的に整然と網羅した図という意味である。契沖の五十音は、いろは四十七言との共通性を引き合いにすることから見て、仮名遣いのために用意された観念であることが確実である。五十音図は日本語音声要素の過不足なき全体図として提示されているのであり、反切に利用された従前までの五音図(「直音拗音図」「五音五位之次第」とその意図を本質的に異にしていると言ふべきである。

(『近世仮名遣い論の研究』 二〇〇七)

『和字正濫鈔』では、ア行としてあいうえを、ワ行としてわゐうゑお、としている。

『和字正濫鈔』成立当時、五十音図は、同時期の表記への影響はみられない。

本論文で対象としている資料について、五十音図が示されている資料はない。また、対象資料は、すべていろは順が用いられている。よつて、形式上は、五十音図を用いていないことがわかる。

しかし、対象資料である『広益』『大全』『萬代』では、『イ』『キ』

の『イ』『エ』『エ』の『エ』、『オ』『ヲ』の『ヲ』が部立てとして採られている。さらに、表記が統一されている。以上のことから、辞書という形式の作品では、五十音図と同様の表記への意識がみられるといえる。

六 結び

本研究の結果、以下の様なことがわかった。

- ① 中世後期から近世の辞書において、片仮名の仮名遣いは存在する。
- ② 辞書における片仮名の仮名遣いは、従来指摘されてきた中世や近世前半期の仮名遣いと一致しない。
- ③ 辞書という形式は、仮名遣い書よりも、部立ての影響を受ける。

片仮名が表音的であるとするならば、片仮名は一つの表記に絞られ、両方の表記が存することも少なくなり、仮名遣い書と一致する語、もしくは、不一致の語がより多くなるはずである。しかし、実際の用例では、『大全』と『萬代』の片仮名と平仮名の表記について、各仮名遣い書と比較すると、大きな差はない。このことから、平仮名と同様に、片仮名にも仮名遣いが存するとわかった。

よつて、中世から近世前半期における辞書の仮名遣いは、仮名遣い書と無関係な位置にあるのではなく、仮名遣いを意識していると考えられる。しかし、辞書として利用される、という点から、仮名遣いへの意識以上に、検索する上で必要な部立ての影響を受けていると結論づけた。その中で、特に、『イ』『キ』が、最も部立ての影響を受けやすく、片仮名(ヘ)が、最も影響を受けやすい。

以上の結果をもとに、先行研究で指摘されている中世や近世前半期の仮名遣いと比較してみると、いずれの資料も、異なる特徴を持つことがわかった。中世に成立した『易林』は、『イ』『キ』『エ』『オ』『ヲ』における混同が一定数存するものの、それほど多くない。さらに、『易林』の表記の混同は、中世の仮名遣いの混乱と一致しない。また、近世前半期に成立した『広益』『大全』『萬代』において、『エ』と『エ』は両方用いられており、近世前半期の仮名遣いと一致しない。よって、中世から近世前半期の辞書は、従来指摘されてきた中世から近世前半期の仮名遣いとは異なる仮名遣いであるといえる。これは、文学作品における、読者という存在と、辞書における、利用者という存在が異なるためであると考えられる。辞書は、規範を示す書であり、利用者の利便性が必要であるといえる。

文学作品の読者は、作品の本文を読むということが重要である。一方で、辞書の利用者は、辞書の表記や検索ということが重要である。文学作品にはない、辞書の利便性や規範を示すという特徴によって、文学作品と辞書の表記の相違点が生まれたと考えられる。そのため、辞書は、従来指摘されてきた中世や近世前半期の仮名遣いとは異なる仮名遣いを持つのであろう。

注

(1) 表中の割合については、小数点第二位を四捨五入した値を示している。各仮名遣い書と対象資料の表記が一致した場合は○、不一致の場合は×、両方の表記が見られた場合は△とする。表2、表3、表4、表5についても同様。

(2) 例外的な表記のみ検討したため、例外では無い語『イ』『キ』『エ』『オ』『ヲ』×、『エ』『キ』『エ』『オ』『ヲ』○、『オ』『キ』『エ』『オ』『ヲ』○については、用例を挙げない。また、例外的な表記が、片仮名と平仮名の両方で見られる場合には、「」内に語数を足した形で示す。

参考文献および参考URL

- ・今西浩子「易林本節用集の仮名遣」『国語文字史の研究』三 和泉書院 一九九六年)
- ・小林芳規「中世片仮名文の国語史的研究」『広島大学文学部紀要 特輯号三』 広島大学文学部 一九七一年)
- ・佐藤貴裕「早引節用集の位置づけをめぐる諸問題」『岐阜大学国語国文学』二二巻 岐阜大学 一九九四年)
- ・坂詰力治『中世日本語論攷』(笠間書院 二〇一五年)
- ・坂梨隆三『近世の語彙表記』(武蔵野書院 二〇〇四年)
- ・築島裕「片仮名の歴史的研究」『日本學士院紀要』五一巻三号 一九九六年)
- ・築島裕『契沖全集 十巻 語学』(岩波書店 一九七三年)
- ・中田紀夫『改訂新版 古本節用集六種並びに総合索引 影印編』勉誠社(一九六八年)

- ・村上謙「『好色伝受』の音韻表記」(『好色伝受 本文・総索引・研究』笠間書院 二〇〇〇年)
- ・山口倫香「近世前半期における片仮名の仮名遣い」(『論叢 国語教育学』第十五号、広島大学大学院教育学研究科国語文化教育教育学講座、二〇一九年)
- ・山田巖・大友信一・木村晟『駒澤大学 国語研究 資料第二 仮名文字遣』汎古書院(一九八〇年)
- ・『大漢和辞典 縮写版』大修館書店(一九六六年)
- ・新日本古典籍総合データベース <https://kotenseki.nijl.ac.jp/?ln=j>
(最終閲覧 2020/02/12)
- ・国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/>
(最終 閲覧 2020/02/12)

(福岡県立福岡高等学校)

表1-A 『易林』と『假名文字遣』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	105	96.3%	37	92.5%	35	85.4%	14	56.0%	133	80.6%	40	76.9%	364
△	1	0.9%	3	7.5%	4	9.8%	7	28.0%	11	6.7%	9	17.3%	35
×	3	2.8%	0	0.0%	2	4.9%	4	16.0%	21	12.7%	3	5.8%	33
計	109		40		41		25		165		52		432

表1-B 『易林』と『和字正濫鈔』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	169	92.3%	22	84.6%	39	88.6%	13	43.3%	51	47.2%	63	74.1%	357
△	9	4.9%	0	0.0%	3	6.8%	6	20.0%	19	17.6%	16	18.8%	53
×	5	2.7%	4	15.4%	2	4.5%	11	36.7%	38	35.2%	6	7.1%	66
計	183		26		44		30		108		85		476

表1-C 『易林』と『字音假名用字』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	34	81.0%	11	61.1%	27	69.2%	9	50.0%	2	28.6%	10	71.4%	93
△	7	16.7%	0	0.0%	6	15.4%	4	22.2%	2	28.6%	0	0.0%	19
×	1	2.4%	7	38.9%	6	15.4%	5	27.8%	3	42.9%	4	28.6%	26
計	42		18		39		18		7		14		138

表2-A 『広益』と『假名文字遣』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	108	100.0%	0	0.0%	35	85.4%	11	84.6%	2	1.3%	55	100.0%	211
△	0	0.0%	0	0.0%	4	9.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4
×	0	0.0%	29	100.0%	2	4.9%	2	15.4%	149	98.7%	0	0.0%	182
計	108		29		41		13		151		55		397

表2-B 『広益』と『和字正濫鈔』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	139	99.3%	0	0.0%	1	4.3%	11	100.0%	1	1.0%	49	100.0%	201
△	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
×	1	0.7%	19	100.0%	22	95.7%	0	0.0%	103	99.0%	0	0.0%	145
計	140		19		23		11		104		49		346

表2-C 『広益』と『字音假名用字』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	24	100.0%	0	0.0%	5	21.7%	7	87.5%	1	16.7%	3	100.0%	40
△	0	0.0%	0	0.0%	7	30.4%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	8
×	0	0.0%	15	100.0%	11	47.8%	0	0.0%	5	83.3%	0	0.0%	31
計	24		15		23		8		6		3		79

表3-A 『大全』と『假名文字遣』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	133	100.0%	7	17.1%	4	10.3%	17	68.0%	8	4.9%	49	100.0%	218
△	0	0.0%	2	4.9%	8	20.5%	8	32.0%	24	14.7%	0	0.0%	42
×	0	0.0%	32	78.0%	27	69.2%	0	0.0%	131	80.4%	0	0.0%	190
計	133		41		39		25		163		49		450

表3-B 『大全』と『和字正濫鈔』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	195	99.0%	1	3.7%	3	8.3%	8	47.1%	1	0.7%	77	97.5%	285
△	1	0.5%	3	11.1%	14	38.9%	3	17.6%	16	11.4%	2	2.5%	39
×	1	0.5%	23	85.2%	19	52.8%	6	35.3%	123	87.9%	0	0.0%	172
計	197		27		36		17		140		79		496

表3-C 『大全』と『字音假名用字』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	47	95.9%	0	0.0%	10	24.4%	7	53.8%	0	0.0%	15	100.0%	79
△	2	4.1%	0	0.0%	8	19.5%	6	46.2%	1	10.0%	0	0.0%	17
×	0	0.0%	19	100.0%	23	56.1%	0	0.0%	9	90.0%	0	0.0%	51
計	49		19		41		13		10		15		147

表4-A 『萬代』と『假名文字遣』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	117	100.0%	4	10.0%	7	22.6%	15	68.2%	0	0.0%	49	90.7%	192
△	0	0.0%	3	7.5%	5	16.1%	3	13.6%	34	22.7%	4	7.4%	49
×	0	0.0%	33	82.5%	19	61.3%	4	18.2%	116	77.3%	1	1.9%	173
計	117		40		31		22		150		54		414

表4-B 『萬代』と『和字正濫鈔』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	178	100.0%	1	4.2%	6	22.2%	18	75.0%	0	0.0%	57	96.6%	260
△	0	0.0%	2	8.3%	4	14.8%	1	4.2%	30	29.7%	2	3.4%	39
×	0	0.0%	21	87.5%	17	63.0%	5	20.8%	71	70.3%	0	0.0%	114
計	178		24		27		24		101		59		413

表4-C 『萬代』と『字音假名用字』の一致・不一致

	い	いの割合	ゐ	ゐの割合	え	えの割合	ゑ	ゑの割合	お	おの割合	を	をの割合	計
○	35	97.2%	1	5.9%	5	16.7%	6	60.0%	0	0.0%	11	84.6%	58
△	1	2.8%	1	5.9%	4	13.3%	1	10.0%	3	27.3%	2	15.4%	12
×	0	0.0%	15	88.2%	21	70.0%	3	30.0%	8	72.7%	0	0.0%	47
計	36		17		30		10		11		13		117

表5-A 『假名文字遣』と『大全』の平仮名

	い	ゐ	え	ゑ	お	を
○			7	3	1[4]	
△	0	2	1[3]	2[3]	24	0
×	0			0		0

表5-B 『假名文字遣』と『大全』の片仮名

	イ	ヰ	エ	ヱ	オ	ヲ
○			0	1	4[7]	
△	0	0	4[6]	5[6]	0	0
×	0			0		0

表5-C 『假名文字遣』と『萬代』の平仮名

	い	ゐ	え	ゑ	お	を
○			4	3[4]		0
△	0	3	1[3]	1[1]	6	2
×	0			0		0

表5-D 『假名文字遣』と『萬代』の片仮名

	イ	ヰ	エ	ヱ	オ	ヲ
○			0	4[6]		0
△	0	0	1[3]	1[1]	28	2
×	0			4		1

表5-E 『和字正蓋鈔』と『大全』の平仮名

	い	ゐ	え	ゑ	お	を
○			0	3	8	1
△	1	3	1[2]		0	16
×	0		19	3		0

表5-F 『和字正蓋鈔』と『大全』の片仮名

	イ	ヰ	エ	ヱ	オ	ヲ
○			1	0	0	0
△	0	0	5[6]	3	1	0
×	0		0	2		0

表5-G 『和字正蓋鈔』と『萬代』の平仮名

	い	ゐ	え	ゑ	お	を
○			1	3[4]	15	0
△	0	1[2]	3	0	12[13]	1
×	0		15[16]	1		0

表5-H 『和字正蓋鈔』と『萬代』の片仮名

	イ	ヰ	エ	ヱ	オ	ヲ
○			0	1[2]	2	0
△	0	0[1]	1	1	18[19]	1
×	0		0[1]	4		0

表5-I 『字音假名用字』と『大全』の平仮名

	い	ゐ	え	ゑ	お	を
○			0	0[1]		0
△	2	0	0[1]		0	0[1]
×	0			0		0

表5-J 『字音假名用字』と『大全』の片仮名

	イ	ヰ	エ	ヱ	オ	ヲ
○			0	9[10]		0
△	0	0	7[8]	6	0[1]	0
×	0			0		0

表5-K 『字音假名用字』と『萬代』の平仮名

	い	ゐ	え	ゑ	お	を
○			0	0[2]		0
△	1	0	1[2]		0	1[3]
×	0			0		0

表5-L 『字音假名用字』と『萬代』の片仮名

	イ	ヰ	エ	ヱ	オ	ヲ
○			1	3[5]		0
△	0	1	2[3]	1	0[2]	2
×	0			3		0